

多文化化する地域の健康課題に関する包括的研究

著者	田 道夫, 内橋 一恵, 戸谷 富江, 永島 聡, 黒野 利佐子, 高橋 由希子, 阿児 馨, 尾? 優子, 紀ノ岡 浩美, 大城 亜水, 水村 容子, 中田 康夫
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	16
ページ	12-12
発行年	2023-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00001175/

多文化化する地域の健康課題に関する包括的研究

濱田 道夫¹⁾

内橋 一恵²⁾ 戸谷 富江²⁾ 永島 聡³⁾ 黒野 利佐子⁴⁾ 高橋 由希子⁵⁾ 阿児 馨⁴⁾
尾崎 優子⁴⁾ 紀ノ岡 浩美⁴⁾ 大城 亜水⁶⁾ 水村 容子⁷⁾ 中田 康夫⁴⁾

本学が位置する神戸市長田区は、多文化共生の歴史の長い地域である。コロナ禍で外国人の増加傾向はやや減速したが、2022年に入ってから再び増加に転じている。コロナ禍前後で変わったことは、ネパール、ミャンマー、バングラデシュ籍の住民の急増で、これまでの韓国朝鮮、ベトナム、中国籍の住民が上位を占める傾向は同じだが、コロナ禍直前の2019年12月と2022年10月を比較するとネパールは16.8倍、ミャンマーは8.4倍、バングラデシュに至っては2019年までは0人だったところから124人になるなど、4位以下の国籍とそれぞれの人数に一層の多文化化、多国籍化、多言語化の傾向が見られる。こうした地域の新たな多様性に対し、本学がどのように歩みを寄せ地域貢献ができるかを、健康課題を切り口に模索する取り組みを行なっている。コロナ禍での地域活動は制限も多く、特に初期には人が集まるようなイベントへの参加はできなかったが、それでも国際保健室活動や、多文化こどもカフェ、小学生を対象とした日本語教育現場でのフィールドワークなどを継続して行なった。今後は、外国にルーツを持つ住民の構成の変化に合わせ、さらなる進展を目指したい。

1) 学長 2) 事務局法人本部社会連携課 3) 大阪夕陽丘学園短期大学食物栄養学科
4) 保健科学部看護学科 5) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 6) 教育学部こども教育学科
7) 保健科学部口腔保健学科